

今・日本語ボランティアは

課題山積のなか、次代を見据えた教室運営をめざす

4月に開催されたTNVN第17回総会で、長年に渡って日本語学習支援の活動をされている方から「近年ボランティアの応募者が減少している。また、質も低下しているのではないか」との意見等が出されました。そこでTNVNでは、1990年代から今日まで日本語ボランティアの第一線で活動されている皆様を取り巻く状況について、無作為に抽出した8団体(教室)の協力をいただきながら若干の考察を行いました。

日本語教室の登場

日本語ボランティアの活動が大きく社会に登場したのは1980年代後半、いわゆるバブル経済期でした。誰からともなく「最近身のまわりで外国人の姿を見かけることが多くなったネ」との声が聞こえ、「国際化」「国際交流」「異文化」という言葉が聞かれはじめました。東南アジア、中近東等からの外国人労働者も含め、在住外国人が増加しました。外国籍住民が日本の各地で居住するにつれ、日本語学習支援の教室が数多く誕生しました。

とりわけ、日本では女性の社会進出時期と重なり、多くの女性の参加がありました。そうしたボランティア教室を繋ぐネットワークとして、東京日本語ボランティア・ネットワークは1993年に発足しました。この時期に学習支援の活動を始められた方々は今日までおよそ20年間

を経過、現在60代～70代に差し加かるうとしています。

ボランティア応募者の減少は

ボランティア教室のリーダーが一番気にかかるのがボランティアの定着状況です。新しい参加者は教室に新しい感覚を持ち込み、何事にもチャレンジする要素があり、グルーブや団体の新陳代謝を促します。逆に参加者の減少は教室活動の停滞を招き、マンネリ化に繋がる恐れがあります。ボランティア応募者の減少は、65歳定年制やバブル経済以降の景気の不況、低迷などが原因の背景にあると受け止められているようです。

一方、教室の通常以外の具体的な募集活動としては、国際交流団体やボランティア養成団体との連携、地域の催し物への参加、企業への案内状の発送など、教室の紹介や存在の周知に努めており、新しい参加者からは「新しい発見ができた」「新鮮な感じを得た」との声が届いているとのことでした。

ボランティアの質の低下

質の低下を感じておられる方々もおり、特徴的にはボランティアとしての意識が希薄、お手伝い感覚、学習者に対し自ら対応方法や指導方法を考えようとしない、実践力がない、教室行事の企画や進行(例：新年会やお花見)等ができないことがあるようです。こうした

状況の克服のため、月例ミーティングや研修会、自主講座の開催、勉強会の実施等各々の活動のなかで質的向上をめざしているとのことでした。

次代を担う ボランティアの育成と高齢化

各リーダーや責任者は「持ち回り担当や役割分担」「会の運営には全員が携わる」等、次代を視野に入れた方策を取り入れながら活動をされていますが、時に自らの退出(世代交代)や、ボランティアの高齢化について考えていただきました。

8教室におけるボランティアの世代構成は50代=25%、60代=38%、70代=11%、3世代が74%と多勢を占めています。(この数値は8団体のみであり、TNVN全体の平均値ではありません)世代構成からも明らかのように、ボランティアの高齢化については肯定的にとらえられており、「ボランティア活動は経験が第一」「仕事が繁忙での中断や引退がなく、安定」「社会経験、知識が豊富」と、ボランティアとしての役割や意義が見出されています。さらに高齢にともないマンネリ化に陥りやすいので新鮮な感覚や新しいことを受け入れるバランス感覚が必要。多文化社会では日本語学習者のために支援者が地域でいろいろな形で活躍できる場作りが大切。教室の存在や存続の意義を認識してもらえるようにしたい。と積極的な提言をいただきました。また、「支援者として学習者に寄り添うことが大事」「必要としている人のために存在したい」「しっかりと今の教室運営をしていくことが次代に繋がる」等と、次代に留意した活動実践の明快な言葉が強く印象に残りました。

ルボ編集：岩佐幹彦

日本語が不自由な外国人に 行政情報は上手く伝えられますか！！

「熱中症」を伝える記事

*平成22年7月31日付け朝日新聞

熱中症死82人（23区内）95%が「屋内」

都は30日、関東地方などで梅雨明けした今月17日以降、29日までの13日間に、23区内で熱中症が原因とみられる死亡者が82人いたことを明らかにした。お年寄りが室内で亡くなる例が大半だった。都は、こまめな水分補給やエアコンなどを活用した室温管理を呼びかけている。（以下省略）

*都・区市のホームページから「熱中症」を注意した記事を見ました。

足立区、港区、新宿区、品川区、練馬区では「注目情報」「新着情報」「お知らせ」としてTOPページに掲示しています。品川区は英語版で自動翻訳されました。これらの記事はそれほど難しくない日本語で書かれ、読んで理解ができます。

しかしどれだけの外国人が読んで、理解し行動に移せるでしょうか。

読み手である外国人は どの程度の日本語が読めるのでしょうか。

これらの記事は日本語を学ぶ意志・意欲を持って勉強をして、日本語能力 [N1] (1級) [N2] (2級) に達した大半の人達には読みこなせるでしょう。しかし、「日常の場面で使われる日本語をある程度理解する事が出来る」[N3] (2級と3級の間) では難しく、まして日本語能力が [N4] (3級)・[N5] (4級) 程度の人達には難しいでしょう。

伝えたい情報の受け手である一般の生活者はこの [N4] レベル (基本的な日本語を理解することができる) か、それに達していない人達も多いでしょう。

(新しい日本語能力試験のレベル5段階にN1、N2、N3、N4、N5)

外国人に向けた行政情報の多くは4ヶ国語 (英語、中国語、韓国語そして日本語) です。

情報誌、生活ガイド、パンフレットなどで4ヶ国語以外の言語で作られた冊子もあります。しかし情報として発信出来る言語には限界があります。

「日本語」は漢字にルビが振られたもので、受け手である

外国人はその意味がすぐ理解できるでしょうか。

「生活ガイド」を学習者 [N3程度] に読んで貰いましたら。.....難しい！長すぎる！

日本語ボランティア教室の皆さんは学習者に行政情報をどのようにして分かりやすく伝えていきますか。

「やさしい日本語」で情報を発信

災害等の緊急時に「やさしい日本語」を使う活動が進められています。また「翻訳しやすい日本語」に日本語を直して当該言語に翻訳されています。

一部の行政・学校等は文字情報を「やさしい日本語」で発信する検討をすすめ、周知を図っているところがあります。東京都生活文化局でもこの課題に取り組むこととなりました。

要は読み手である外国人にとって情報「日本語」は「やさしい日本語」であり、また「分かりやすい日本語」であって欲しいと望んでいます。

TNVNでは情報が外国人にとって 「分かりやすい日本語」であって欲しいに向けて

日本語ボランティア教室に来ている学習者は外国人向けの行政情報をどのように受け取り、内容を理解し、行動が出来ているのでしょうか。

行政等が進めている「やさしい日本語」の情報発信の状況・内容を知る。

学習者が行政情報に望む日本語「分かりやすい日本語」がどのようなモノであるか。(教室に寄せられる質問など) 次の観点で整理したいと考えています。

- 情報の種類・内容に応じ発信する情報の日本語レベル
- 使われる単語・文言 (必要な語彙)
- 読み手に最低限必要な日本語能力を何処に置くのか。(例えば日本語能力検定 [3N] の読み書きが出来る。緊急時は [N5] でも行動が出来る)
- 日本語学習支援の場で行政情報を学習者にどのように伝えるか。

TNVN会員の方々に参加して貰い検討をすすめ、「分かりやすい日本語」の必要性を考えます。また東京都を始め国際交流部署の窓口と協力し、共に考えていきます。

(梶村 勝利)

課外活動

区内めぐりバスの旅の巻



江戸川にほんご交流会 B (江戸川区)

「江戸川にほんご交流会」は、A,B,Cという三つのグループがあります。

Bグループは、先生が15名。学習者は毎回50名前後というところでしょうか。金曜の夜七時からなので、先生も学習者も仕事を終えてからということになります。学習者の、あくびを堪えながら真剣に学ぶ姿には.....うん。

今回は、Bグループのみのバス旅行。総勢、先生も含め46名。満員の状態でした。江戸川区は、区内の施設、名所案内に無料でバスを提供してくれます。自分たちで、コースも決められるので、このバスを利用するの企画です。

...小雨の中...

最初に行ったところは『春花園 BONSAI 美術館』。何百年も経た『盆栽』の堂々とした形容は圧巻そのもの。約30分、皆それぞれの思いで眺められたことでしょう。帰りには、朝顔の小鉢をいただきました。

...ということで、次の『くつろぎの家公園(足湯)』へ。『くつろぎの家』は、高齢者のための健康いきがい施設です。足湯は近くにある清掃工場の余熱を利用しています。

足湯...みんなで足を入れて、はだしの付き合いで和み、ほ

かほかに温まりました。

さて、昼食の時間。自前の手弁当やら、コンビニ弁当やら様々でした。昼食後は年配の方が囲碁、将棋、カラオケ、ダンスなどでくつろいでおられるところを拝見させていただきましたが、なかなかのものでした。

少し勢いを増した雨の中、次の『堀口養魚場』へと向かいます。ここは金魚専門で、さば、さんまなど一般的な魚はいません。あ、失礼。

折しも雨、金魚さんたちは水中に潜り込み水面に姿を現しません。でも、浅い水槽には珍しい金魚があちらこちらに...

...ん十万もする珍魚にため息が出る人も。一匹、ん百円のものは何人かの方が購入していました。

そんなこんなで、どしゃ降りの雨の中、最後の『フラワーガーデン』へ。

メインの薔薇園...时期的には最高。天気的には最悪。咲き誇る薔薇さんたちも気まずそうな気配。でも薔薇はバラ。色とりどりの薔薇は雨に濡れながらも、しっかりと私たちの心を撫でてくれました。激しくなった雨のため、靴の中にも水が入り



込んでくる。名残惜しげに、しおしおとバスの中へ。

だが、バスの中みんなの顔は満足気にほころんでいました。雨から逃れられた為の笑顔ではなく...。一日、いろんな国の人と一緒に行動を共にしたこと。その人たちと一言でも二言でも言葉を交わせたこと。笑顔の中身は明確にはわからない。でも、和やかな表情が確かにそこにありました。無事に終えて良かったが実感です。

バスの中で最後の挨拶

「今日は雨の中、“さんざん”でしたね。ご苦労様でした」

...う~ん、“さんざん”の意味が分かった学習者が何人いたことやら...

(城田弘道)



ひとつの方法

絵辞書をつくりましょう

ビバ日本語教室 林川玲子

言葉のわからない国へ行った時、せめて単語だけでもわかると、「食べる・魚」のように自分の意志を示すことができるでしょう。日本語を学習し始めた人たちも「これはなんていうのだろう」とモノの名前が知りたいはずです。

いろいろなモノの名前が載っている絵を使って、Q & Aゲームをしましょう。

Q & Aゲームをするとかなり覚えられますが、たとえ忘れても絵辞書が役に立つでしょう。

Q & Aゲームのやり方

メンバー3人以上（支援者が学習者より多くてもよい）

支援者が複数いる場合は、1人が「リーダー」になり、他の支援者は「できる生徒役」をする。

まず支援者がAさんになり、メンバーの中の「できる生徒」Bさん（学習者か支援者）とQ & Aをする。

次は、Bさんが質問役、Cさんが答え役になり、その次は、Cさんが質問役でAさんと、という具合に役を変えながら、絵にあるモノの名前が全部出るまで続ける。

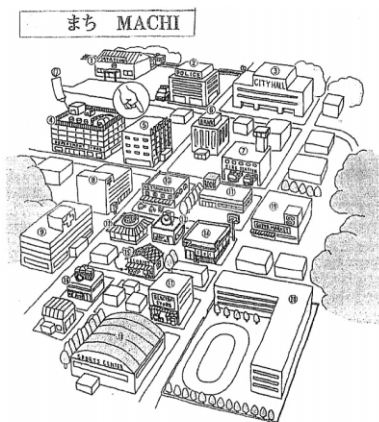
リーダーの役割は、だれから始めるか指示することと、次のQ & Aに切り替えるタイミングを決めること。

Q & Aゲーム

（実際は、ひらがなとローマ字併記）

1 これはなんですか。

用意するもの...まちの絵（20種類の建物の名前をローマ字とひらがな併記で）



A: これはなんですか。

（指さしながら）

B: (ほてる)です。

A: どうも ありがとう。

B: どういたしまして。

2 ()はどこですか。

用意するもの...デパートの絵（商品名はローマ字とひらがな併記で）

A: すみません、(とけい)はどこですか。

B: (4かい)です。

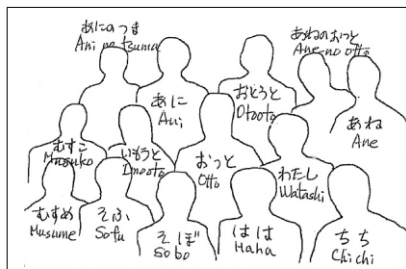
A: どうも ありがとう。

B: どういたしまして。

3 これはどなたですか。

（相手の家族について尋ねる場合は「どなた」の方が好ましい）

用意するもの...家族の集合写真、家族用語の表



A: これはどなたですか。

B: (ちち)です。

A: これはどなたですか。

B: (むすこ)です。

A: そうですか。(おおきい)ですね。

4 ()はいくらですか。

用意するもの...絵メニュー、計算機（店員役用）



B: いらっしやいませ。

ごちゅうもんは？

A: (はんばあが)は

いくらですか。

B: (200えん)です。

A: (こうひい)は いくらですか。

B: (150えん)です。

A: (こうひい)と(はんばあが)をください。

B: はい、(350えん)です。

A: はい、(500えん)

B: おつりは(150えん)です。

ありがとう ございました。

Q & Aゲームの絵教材を集めて絵辞書を作りましょう。



ザンビアはアフリカ南部に位置し、平和で気候も穏やかな国です。

庭の木々にはマンゴーがたくさん実を付けていて、子どもたちは「ちょーだい!!」とその家の人に声をかければいくらでももらえます。食べすぎに注意しなければならないほどです。日本では考えられませんよね。他にもグアバやバナナなど、熟した美味しい果物がとても安く手に入ります。

ザンビアの主食は“シマ”です。ゆでたトウモロコシの粉をかき混ぜて、たまねぎやトマトと一緒に炒めた鳥肉のソースと一緒に食べます。イタリアのニョッキにやや似た味ですが、ニョッキより軽く軟らかいです。手づかみで食べますので手を洗うボールも忘れずに。

ザンビアの人は皆お酒が大好きです。男性陣は仕事帰りにビアホールでサッカーや政治の話をしながらビールを何本も空けます。土曜日は女性だけのパーティーもあります。ワールドカップのときは男も女も毎晩ビアホールにつめかけて大盛況だったようです。いちばん人気のビールである「モシ・ラガー」を24本入りのケースで注文し、3本飲んでトイレに行き、また3本飲んで...とたいへんな消費量です。

私は日本人の夫と結婚し10年前に日本にきました。来日当初は食べ物にいちばん苦労しました。私が育ったザンビアとは味付けがまるで違うのですから。たまご焼きを食べたとき、なぜ砂糖が入っているのか、これは間違いではないかと思いました。ザンビアでは砂糖はお菓子や紅茶・コーヒーに使うもので、料理の味付けには使いません。料理に使う調味料はもっぱら塩です。ソースや酒は使いません。しょうゆや味噌はもちろんありません。

日本ではすき焼きはたくさん砂糖を入れるし、しかも生卵につけて食べるので本当に嫌でした。卵を生で食べるのを見たのは初めてでした。

お寿司ももちろん初めてでした。魚を生で食べることはありませんでしたから。夫は寿司が

好きでいろんな種類のにぎりを注文しますが、私からすると生の魚だからみんな同じ味に思えます。

お米はザンビアでも食べますが、インディカ米を主にシチューに入れて食べます。さらさらのお米に慣れていると日本のご飯はネバネバして好きではありませんでした。

日本に来た頃は言葉もわからず、食べ物は受け入れることができず、そんな状態が何ヶ月か続いたので、ストレスで食べることができずすっかり痩せてしまい、元気がなくなりました。夫が私を病院に連れて行き、お医者さんにはカルチャーショックだと言われました。入院し一日点滴をして、翌日、栄養士さんから自宅で料理するメニューを2週間分渡されました。このメニューの食事を取ることができないならザンビアへ帰りなさいと医者に言われました。夫が料理を作ってくれ、薬だと思って食べ続けました。2ヵ月後、私の身体は元に戻り、少しずつ日本の食べ物が好きになりました。日本に来て10年になりますので、今では梅干も納豆も、何でも好きです。

家族揃って2年に一度は夏休みに帰省していますが、小学3年生の娘は日本で生まれ育ったので日本の食文化が基本になっています。ザンビアでは乾燥させたカイコに似た虫を食べます(エビのような味です)。幼い頃は喜んで食べていた娘も最近では虫の顔を見て「かわいそう」と言って食べなくなりました。最初に娘が「早く日本に帰りたい」と言い始めます。私もしばらくすると味噌汁の味が懐かしくなって日本に帰りたくなります。日本食はもう何でも食べられます。ウナギと、タラコと、砂糖の入った卵焼きを除いては、ね。



ザンビアと日本の食文化の違い

安藤 ジャネット / ザンビア

清瀬国際交流会日本語教室(清瀬市)

日本語を教えるだけでなく、民間ユネスコ運動を世界に広げる役割も担っています。

目黒ユネスコ日本語教室 (目黒区)

- 主催：NPO法人目黒ユネスコ協会 共催：目黒区教育委員会
- コース：火曜朝・火曜夜・土曜朝の3コース（土曜は漢字クラスもあり）
- 教室会場：めぐろ学校サポートセンター（中目黒）
- クラス：グループレッスン（初級～上級まで各コース8クラス）年間3学期

23年前、学習者1名から始まった当日日本語教室は、現在40数カ国からの学習者150名、目黒ユ協会員スタッフ40名の大使帯となった。数名から30名程度までクラスの規模は様々だが、各クラス担当者は豊富な知識や経験を駆使して活動している。

また、この教室は日本語を教えるだけでなく、民間ユネスコ運動を世界に広げる役割も担う。学習者は目黒ユ協フレンドシップメンバーとして、見学会、料理教室、日本文化紹介等にも参加。小学校へ出前授業に赴き、自国の文化の紹介や子供たちとの交流を通し、学習者もスタッフと共に、ユネスコ精神の普及に努めている。（大前）

様々な国の人が同じクラスで学習することで、国を超えて「人間って同じだなあ」と実感します。週2回のクラスなので、自分でコツコツ勉強を続ける気持ちを維持できるかどうか为上達のカギになります。毎回楽しく参加して頂けるように私達スタッフは工夫を重ねています。

土曜日は参加し続けるのがなかなか大変です。貴重な休日に早起きして来るのですから。来日事情、滞在条件なども様々で、学生・働いている若者・主婦・大使館員・研究職の人等々。日本人との運命の出会いで、囃らずも遠い日本で暮らすことになった人もいます。個々のレベルも異なりますし、週1回

だけの僅かな時間ですが、メンバーが「今週末来てよかった」と感じられるように……というのが担当者の切なる願いです。

火曜日夜のクラスには自転車で1時間半かけて通ってくる人や、辞書を片手に長文読解に挑むサラリーマンといった人たちがいます。また、中国人の二組の若夫婦が、男性の仕事が終わってから駆けつけて来ます。日本語能力試験2級合格を目指して4人で肩を並べて机に向かう姿は微笑ましく、担当者の励みになります。（スタッフより）



会員団体紹介

Nice to Meet You

町田市では十数年前から市内の外国籍及び日本人の帰国子女の小・中学生を対象に各公立小・中学校において日本語の支援を行っています。初期は「まちだ地域国際交流協会（MIFA）」の有志を中心として支援をしていましたが、2005年に『町田にほんごスクールネット』の名称でボランティア団体として登録し、現在の会員数は約40名です。

どのような形で活動しているかといいますと、まず日本語が不十分な子供が在籍する学校から町田市教育センターに日本語指導の依頼申請がなされて承認されると教育センターから町田ボランティア

nice to meet you

楽しく学校生活を送るためのサポートを

町田にほんごスクールネット (MNSN) (町田市)

コーディネーター 杉本薫

センターを経由して私たちのところに日本語支援者派遣要請がきます。コーディネーターが会員の中から適当な方に支援のお願いをし、引き受けていただくと、支援者は各学校において普通は週2回、2時間ずつ取り出し形式で日本語指導を行います。子供たちは年齢、国籍、日本語能力、母国での教育環境など様々で一人ひとり異なるため指導方法は一律ではなく、各支援者が担任教師と相談しながら一番よい指導方法を見つけていくということになります。

全く日本語が分からないまま、いきなり日本の学校に通うことになった子供た

ちは、一日の大半を何も分からない状態でおとなしく座っていなくてはならないという試練に直面します。そのような子供たちが少しでも早く学校生活に慣れ、日本語の基礎を学習することによって日々新しいことを覚えていき、日本語の世界が広がり理解する喜びを感じてもらえるように、サポートするのが私たちの役目だと思っています。しかし現状では年60時間の限度（多少の延長はあるが）の支援では学習言語までは到達できず、特に小学校高学年・中学生への長期的な学習支援が検討課題です。

学習者の声

もっと大勢の人が
参加していいなあ

塚田 麗 / 中国
日本語サークル「くりはら」(足立区)



んにぎやか、わいわい、みんな仲良く歓声で盛り上がります。チームに分けて、クイズで勝負するところが面白さで一杯です。また先生の巧妙な手際良い手品、テレビで見た魔術師みたい、どうやってできたのか、いまだに謎です。

教室の内容は豊富で、授業は充実し、あそびも楽しくて満足に足るものです。

ボランティア活動は外国人にとって、とても助かると思います。日本の景気が悪く就職が難しい、お金がないのが事実で、日本語学校に行けない。でもこのボランティア教室で学校と同じように日本語を勉強出来ます。また忙しい生活の中、短時間での勉強の場所を提供してくれて、私のような家庭の主婦にとっては、日本語が勉強できる良い機会です。もっと大勢の人が参加していいなあ、私はこれからもボランティア教室で勉強を続けていきたいと思っています。

私は日本語ボランティア教室に通って約2年になります。とても楽しいです。いろいろ異文化交流もできます。日本に来て日本語がわからない、お友だちができない人たちがこの教室でお友だちになって、持ちつ持たれつ世の中困った時お互い様です。先生方は生徒たちのレベルに応じて会話の練習、文法の学習をしてくれるので、私はこの教室に入ったとき日本語能力試験の1級の文法が何もわからない状態でしたが、2年間の勉強を通じて、著しく上手になりました。

ボランティア教室は日本語を教えるだけでなく、いろいろな日本の生活習慣や常識などを教えたり、日本でのさまざまな悩みも相談にのったりしてくれます。就職試験での面接の注意点とか、良いアドバイスしてくれ、心から感謝しています。勉強のほがお楽しみ会やクリスマス会など、たいへ

ボランティアの声

仲間の「たかがボランティア、されどボランティア」のこぼれ「ハッ!」と。

寺内由美 / 日本語サークル「くりはら」(足立区)



やさしい日本語の文字の背表紙が教室の3方を囲んでいます。机も椅子も少し小ぶり。毎週火

曜日の夕方6時30分近くなると、東京の北東、足立区の西新井駅に近い小学校の図書室に明かりが灯り、学習者とボランティアがぞろぞろ集まってきました。

「今日は誰と勉強するのかな、先週は韓国のSさんに自動詞と他動詞の違いを聞かれ、上手く説明出来なかった。Sさんにもう一度分りやすく話したいな...」

Sさんの顔を思い浮かべて自転車を走らせる私は、日本語ボランティアを始めてから6年目。たくさんの外国から来た学習者に会い、さまざまなお国の事柄を聞きました。でも、少し日本語が話せるようになると、アルバイトや仕事が見つかり、勉強を続けることが難しくなったとか、また、仕事を失って止む無く帰国するなどの理由で、教室に顔を見せなくなり。私は少しがっかりして用意した教材をバッグに戻したことも何度か。とくに学習者の入れ替りが激しいと、日

本語教室は、つかの間の雨宿り場所のようなものかな、と思うときがありました。自分の教え方のせいではないか、教室の雰囲気良くないのではないかと、思いが空回りしました。

仲間の中に「たかがボランティア、されどボランティアだよ」と言う人がいます。醒めた言い方もかもしれませんが、ボランティアを続けていくには、学習者の置かれている環境や現実を認識する気持ちが必要だと気付かされました。

入会する学習者はほとんど、「仕事や職場で困らないように」「日常生活で困らないために」日本語を学びたいと考えて来ます。日本的な言い方ですが、ご縁があって一つ屋根の下に集う1日1日ですから、出来るだけ楽しく気持ちよく勉強し合える場所であり、まずは必要としている日本語を伝え、切実な学びへの気持ちに応えたいと、いまは思っています。





●「ボランティア日本語教室ガイド 東京 2011」の作成作業に入ります。発行は2011年3月を予定しています。

TNVN は主要な活動として、東京都の各地で活躍している日本語ボランティア教室を紹介するガイド(冊子)を作成し、日本語学習の場を求める方々やそこでボランティアを希望する方々に活用して頂いています。「ボランティア日本語教室ガイド東京」は日本語学習支援に係わる多数の窓口や教室で広く活用をいただいています。最新版の問い合わせも増えています。これまでにガイドを5回発行、2008年版に続き、2011年版を発行することとなりました。

発行の資金として「平成22年度東京都在住外国人支援事業助成」に本冊子発行のための助成を申請し、助成金交付決定の通知を受けました。但し本事業は助成金で全てを賄えず、多くを貴重な会員団体の会費を充てさせて頂くと共に、多くの方々の協力

で行われます。2011年3月の完成を目指し、作業を始めます。

2008年版では東京都内で活動されている日本語ボランティア教室193団体の教室を掲載しました。2011年版には更に新たに発足した教室、活動をしていて掲載されていない教室など、1件でも多く加えて、日本語の学習を望む方々へ紹介する冊子がより充実するよう進めていきます。

会員・非会員別なく掲載しています。是非2008年度版に未掲載の教室をTNVNにご紹介下さい。

TNVN のホームページの欄も教室の活動案内を逐次更新・追加掲載しています。

これから調査表を各教室宛にお送りしますのでご協力をお願いします。

(ガイド担当者)

■ TNVNは「出前講習会」をしています。

都内や近郊の日本語ボランティア教室には日本語ボランティア養成講座や研修講座を実施しているところが多くあります。TNVNでは、そのような折に講習会を出前し、好評をいただいています。

貴団体もご計画をお持ちでしたら事務局にお問合せください。お待ちしております。2008年は10件、2009年は6件の依頼を受け、協力させていただきました。

(担当：林川)

■ TNVN事務局にお立ち寄り下さい。

事務局を東京ボランティア・市民活動センターで毎週金曜日に関き、役員・スタッフが交代で詰めています。定常の事務処理や日本語学習についての相

談で訪れる方への対応をしています。ご来訪の方と日頃の活動状況や情報を交換しています。気軽にお立ち寄り下さい。お待ちしております。

● Column

◆ 五月十九日の朝のニュースから

朝は食事の支度をしながら耳はいつもテレビのニュースを聞いています。

この日の朝のニュースで厳しく中学生の年齢を決めていた当局が、外国から日本に入ってくる中学生の年齢を柔軟化すると述べていました。今までホトホドこの問題に悩まされていたので、手に朝食の材料を持ったまま、テレビの前へとんでいきました。中学生の年齢をすこし超過しているだけで中学三年生

に入れないと厳しく言われ続けていました。なんとか中学生にして下さいと行政に頼み続けていたのですから。

何ヶ月という単位で夜間中学の道しかない子どもたちを毎年のように見て来たつらさに、明るいニュースでした。

しかし、そのうれしいニュースはその後少しも表に出て来ないのです。いまだにあれはなんだったのかしら? 年齢制限に直面する中学生が教室に現れて難題に取り組むことがなくなることを切に念じて、朗報を待っている今日この頃です。 八月二十七日 (R.O)



TNVN東京日本語ボランティアネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通し、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日

第1、第3 金曜日 / 午後2時～4時
第2、第4 金曜日 / 午後2時～6時

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線 - 出口B2b)飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。

ご意見もお待ちしています。

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4

TEL : 03-3235-1171

(呼出：金曜日活動時間帯のみ)

FAX : 03-3235-0050

E-mail : webadmin@tnvn.jp

URL : <http://www.tnvn.jp/>

郵便局払込

口座番号：00100-1-719259

加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

●会員数(2010年8月6日現在)

正会員：83団体、団体協会員：4団体
個人協会員：30名、賛助会員：5団体

●編集 / 岩佐 幹彦、大木 千冬、
岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利
床呂 英一、林川 玲子、福井 芳野

●レイアウト / 鶴田 環恵